

中国経済の減速について

世界の株式市場が中国に振り回される展開が続いています。

日経平均株価は、8月中旬まで 20,500 円前後の水準で推移していましたが、8月下旬から9月にかけて大きく下落し、9月末現在では 17,388 円 15 銭と低迷しています。日本のみならず、欧米各国や多くの新興国の株式市場も大荒れの展開が続いています。

主な原因は、中国株式市場の大幅な下落と、背景にある中国の景気減速懸念にあることは周知の通りです。そこで、中国経済の現況について、簡単に確認してみたいと思います。

グラフA：上海総合指数の推移（週足）

グラフAは、中国の代表的株価指数である上海総合指数の推移です。春先にかけて大きく値上がりした株価は、初夏になると一転して大幅な下落に転じました。

株価下落のひとつめの理由は、春先の株価上昇が、景気実態とはかけ離れたバブル相場だったのではと考えられることです。以前から中国経済の減速傾向が伝えられるなか、株価はもっぱら政策に対する期待で上昇したと目されています。中国政府も、下落以前の株価が割高であったとの見解を示しています。



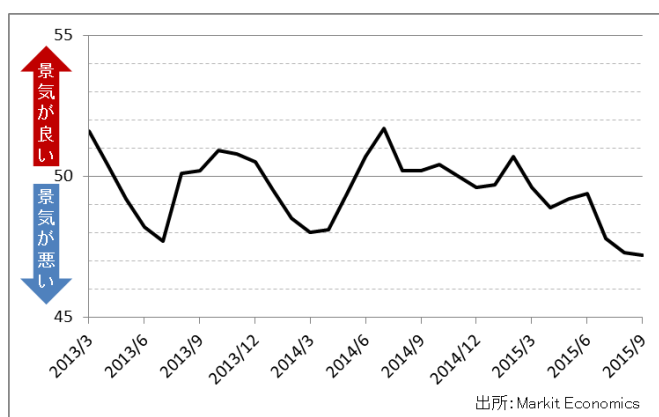
株価下落のふたつめの理由は、夏場以降、中国経済が減速の度合いを一層強めているのではないかと懸念されていることです。

グラフB：Caixin 製造業 PMI

グラフBは、中国の製造業の景況感を表す経済指標のひとつです。年央以降、数値は低下傾向を強め、製造業の景況感が悪化していることを示しています。

このほか、夏場以降の自動車販売が低調であることが伝えられるなど、足元の中国経済が減速傾向にあることは確かなようです。

政府目標である年7%成長は困難になったと予想する声も増えているようです。

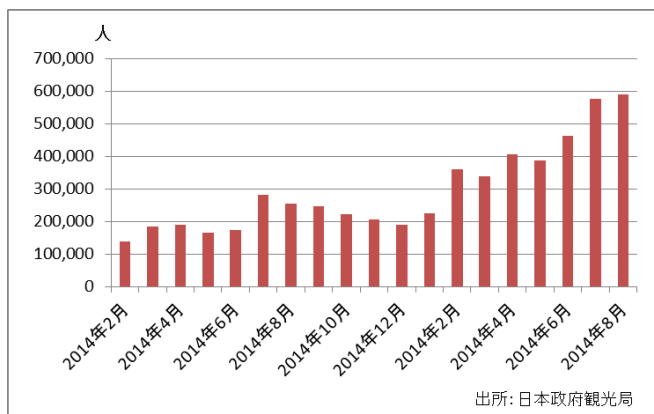


さて、2月の春節（中国のお正月）時には、中国人観光客の爆買いが話題となりましたが、その後の観光客状況はどうなっているのでしょうか。

グラフCは、中国籍外国人の訪日客数の推移です。日本を訪れる中国人は春節以降も増え続けており、株価が下落した夏場以降も衰えを見せていません。

少なくとも、足元の景気の減速が、今のところ中国人の観光や購買意欲を大きく損なうといった状況にはなっていないと推測されます。

グラフC：中国籍外国人の訪日客数（月別）



こうした中国の状況は、日本企業の景況感にも端的に影響を与えています。

10月1日に発表された「日銀短観」では、大企業の製造業の景気判断は、中国などの景気減速が影響を及ぼし、プラス12ポイントと3期ぶりに悪化しました。一方、大企業の非製造業は、中国人をはじめとする外国人観光客の消費が活発なことなどから、前回は2ポイント上回ってプラス25ポイントとなり、およそ24年ぶりの高水準となりました。

今後も中国経済の動向には注意が必要でしょうが、景気減速が緩やかなものにとどまるならば、過度の懸念が和らぎ、株式市場の混乱も収束に向かっているのではと考えられます。

一般社団法人全国経営診断士会

〒112-0004

東京都文京区後楽 2-2-17 NBD 三義ビル

TEL: 03-3812-8211 FAX: 03-3812-8213

mail@cbca.jp http://www.cbca.jp

お問い合わせ先